
硝煙のマキナ

樹村 薫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

硝煙のマキナ

【Nコード】

N3119BA

【作者名】

樹村 薫

【あらすじ】

帝国軍所属のバルトはある日上官から魔法学園への潜入を命じられる。そこで出会った仲間達と学園生活を送り穏やかに過ごしている所に……。色々な要素がごちゃ混ぜで文法も怪しいかもしれませんがそこはご容赦を。

ブローグ 告知

薄暗い部屋の中に二人の男がいる。

一人は執務机に座った壮年の男、もう一人はその前に立っている若い青年である。

「本日はどのようなご用件でしょうか？」

青年が少し高い、それでいてどこか無機質な声で壮年の男に尋ねた。

その声に男は苦笑を含んだ声で答えた。

「そんなに固くなるな、知らない仲ではないだろうに。」

「いえ、そのようなわけには。」

男は青年の上司なのだろう、青年の変わらない態度を見て苦笑を顔に浮かべて言葉を続けた。

「お前の次の任務が決まった、急で悪いが明日には出発してもらう。」

「・・・続きをお願いします。」

上官の言葉に少しだけ目を細めたがそれ以上表情を変えずに青年が答える。

「次の任務は潜入でかなりの長期間現地に潜入してもらう、くわし

い詳細はこれに書いてある。」

そう言つて男は紙束を引出から取り出し青年に渡す。

受け取つた資料に目を通し始め数秒もしない内に青年が目を見開いた。

「ヘルマン大佐、この任務内容は？」

苦笑に浮かべていた顔から真面目な、しかしどこか優しさを持つ顔になり少し声を荒げた青年に答えた。

「今までの任務とは多少毛色が違い苦勞するだろうがこれも立派な任務だ、お前に拒否権はない。」

「ですがこのような任務を自分がつけるのは……」

「なに何ならただの潜入任務だと思えばいい、そう難しく考えるな。」

そう言つてもまだ納得のいかない様子の青年にダラス・ヘルマン大佐はため息を吐いて言つた。

「今回の任務はお前の今までの功績を考慮してのことだ、その褒美だと思つておけ。」

「……わかりました。」

まだ納得はしていなさそうだが上官の命令は絶対であり先ほどのやり取りも本来処罰ものだ、これ以上軍規を破るわけにはいかず青年

は頷いた。

その後青年は資料の続きを目をより細めながら見て、見終わった所でヘルマンに声をかけられた。

「出発は明日のヒトフタマルマルだ、それまでに必要最低限の装備を整えて後に必要になった物はその都度ここに申請しろ。」

「了解しました、それでは失礼しました。」

青年はそう言い敬礼をして部屋から出て行った。

ヘルマンは扉が閉じるのを確認すると大きくため息を吐き、どこか遠くを見つめるようにしてつぶやいた。

「あいつも変わってしまったな・・・、今回の任務が良い方向に転がればいいんだが。」

視線を落とした先には先ほどの資料が置いてありそこには今回の任務の内容が書かれていた。

《任務遂行者：バルト・ガルフィルム 潜入地：帝国魔法学園
独立自治区》

ブログ 告知（後書き）

読んでくださってありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3119ba/>

硝煙のマキナ

2012年1月8日01時46分発行